

3番 小松 ひとみです。通告に基づきまして一般質問を行います。

1 うれいら商店街への交流拠点施設の整備について

かつて、向町にあった岩泉中央公民館は2014年（平成26年）8月1日に閉館となりました。建築後45年が経過し、老朽化と耐震不足により取り壊されました。

図書館も併設し結婚式も挙げられた地域と密着した施設でした。その公民館という概念は、戦後の荒廃し混乱した社会状況の中で、新しい日本を築き上げるには各地に郷土再建の拠点をつくる必要があるということでした。

今は、岩泉町民会館がその役割を担っておりますが、まちの中心地にこのような施設が無くなってしまったことでの閉塞感がどんどん大きくなっています。

私は3年前、岩泉らしさを伝える新感覚の拠点施設が必要であると一般質問をいたしました。

それから社会状況の変化を考えると、岩泉らしさ、新感覚でなくても、ますます「交流の場」の必要性が緊急の課題と実感しています。それはミニ公民館的な、人が集い、寄り添う場所です。地域コミュニティーは交流、協力、つながりの強化をめざす大切なものです。

ぜひとも、うれいら商店街の空き店舗や空き家を活かして、台風災害からの郷土再建、これからの希望の町づくりを担う拠点施設の整備をする考えがないか町長の見解をお伺いします。

2 町独自の顔の見えるマップづくりについて

少子高齢化、人口減少、それは日本全国どこも同じ悩みですが、そこを逆手に考えると、一人ひとりの顔が見える町にもなりえると思います。

町では、台風災害後に地域防災計画を見直し、防災マップを作成しました。

そこで、さらに住民が参画して作るもっと細やかな地域図ができないでしょうか。各戸の家族構成や年齢等、そこに至る付近の道路の表示もある絵地図のようなものです。この情報は公開するわけではなく、あくまでも地域力の把握であり福祉にも役立つことです。

町で各自主防災協議会に働きかけ、顔が見え、地域で共有できる住民マップを作成することを提案しますが、町長の所見をお伺いします。

以上で、本席からの質問を終わります。

3番 小松 ひとみ 議員の御質問にお答えします。

はじめに、うれいら通り商店街への交流拠点施設の整備についてであります。少子高齢化の進展と核家族化、共働き家庭の増加などにより、地域の支え合い機能が低下している中、人が集い、寄り添う、ミニ公民館的な「交流の場」は、地域コミュニティの維持・強化に必要であるとの認識は、議員と共有するところであります。

このため、自治会等により町内各地区に整備されている集会施設には、その維持管理分の助成を行っているほか、新規の施設整備や改修等につきましては、その基準額の9割を補助するなど、後押しをしてきているところでもございます。

今後におきましては、うれいら通り商店街や関係する自治会、住民の皆様から御意見をお聞きしながら、交流拠点施設の必要性や整備の意向について、どのような支援ができるのか調査研究をしてまいりたいと存じます。

次に、町独自の顔の見えるマップづくりについてであ

りますが、町では、平成28年台風第10号豪雨災害を教訓に、新たに河川の洪水浸水区域を表示した防災マップを昨年2月に作成したところであり、各種の災害リスクを周知することによって、町民の皆様が迅速な避難行動や安全確保に役立てていただけるよう、全世帯に配布しております。

また、各地区自主防災協議会では、町地域防災計画に付随する地区防災計画を策定しておりますが、この計画による取組の一環として、小川地区及び大川地区においては、どこに避難するかなどを表示した地区独自の防災マップを作成しており、まさに、地域で共有できる地図であると認識しております。

議員御提案のございました家族構成や年齢等を表示したマップを行政が作成し、配布することは、個人情報保護の観点から難しいものと考えておりますが、防災の面から、地域で活用するマップにつきましては、自主防災協議会や自治会等が主体的に作成して頂くよう、自主防災協議会とも連携を図り、働きかけをしてまいりますので、御理解を賜りたくお願い申し上げます。

以上で答弁を終わります。